

「瀬祭」向け酒米、収量追わず

新潟県内の農業関係者が「新潟・山田錦栽培会」を2月に発足させた。主に日本で栽培されている酒造

はばたく新潟 時の人



好適米「山田錦」を県内で作り、10月には収穫にこぎつけている。これまで新潟であまり作られてこなかった酒米を手掛けた狙いと現状について、岩淵忠男会長に話を聞いた。

「新潟・山田錦栽培会」会長
岩淵 忠男氏



た。買い取るのは「瀬祭(だつさい)』で知られる山口県岩国市の旭酒造。社長の本を読み、苦しい経営状況から「これまで成長させたというところを知って感銘を受け、山田錦栽培にチャレンジしよう」と決めた」

「栽培に際して気をつた。買取るのは「瀬祭(だつさい)』で知られる山口県岩国市の旭酒造。社長の本を読み、苦しい経営状況から「これまで成長させたというところを知って感銘を受け、山田錦栽培にチャレンジしよう」と決めた」

挑戦する農家 育成待ったなし

彼らにチャレンジする姿を見せる意味もある。チャレンジしない農業者は次の担い手が生まれてこないのだらう。新潟県の基幹的農業従事者の平均年齢は全国平均よりなお高い67歳(2010年)。挑戦する農家の育成は急務だ。(水口博毅)

「1等米を7割以上」目標

なぜ山田錦を栽培す

るのですか。

「主力のコシヒカリやコシブキは売れずに余っている。そうした品種を作っても価格が下がるだけだ。売れる米を作りたいと思っ

ていたところに、山田錦を作ってみないかと話が来て新

「私自身、他品種の酒米

を作った経験はあるが山田錦は初めて。西日本で作

っていたら、山田錦を栽培した

「しかし来年以降は分か

らぬ。高温になった場合、山田錦は需要が伸びて

るようになりたい。新潟で作

新潟支局 0255-252-7547
長岡支局 0255-8-37-10500